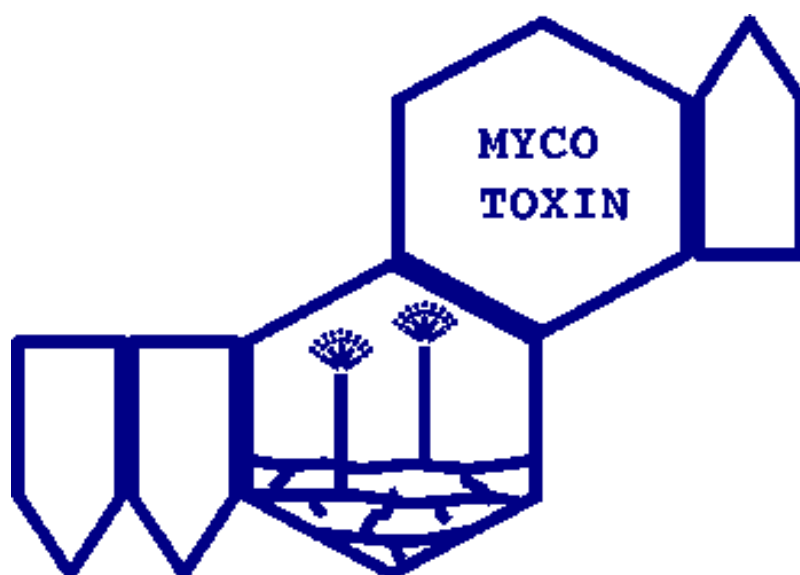


日本マイコトキシン学会
第 8 4 回学術講演会講演要旨集



期 日：2019年8月23日(金)

会 場：帝京大学 宇都宮キャンパス

地域経済学科棟 101 教室

主 催：日本マイコトキシン学会

お知らせ

【会場使用上の注意】

講演会場とランチョンセミナー会場は同じ会場です。午前のプログラム終了次第ランチョンセミナーとなりますので、ご協力をお願い申し上げます。ランチョンセミナー後の弁当及びごみの分別収集にご協力下さい。

建物内は全て禁煙です。喫煙される方は指定の屋外喫煙所をご利用ください。

【一般講演】

会場：地域経済学科棟1階 101 教室

口頭発表は発表 9 分、質疑応答 3 分です。7 分で 1 鈴、9 分で 2 鈴、12 分で 3 鈴を鳴らします。パソコンのスライド送り操作は演者ご自身で行っていただきます。

【ポスターセッション】

会場：地域経済学科棟ロビー

ポスター発表のコアタイムは 14:30～15:30 の 1 時間です。掲示に必要なピン（画鋏）は用意しております。テープ類は使用しないでください。ポスター発表時間終了後、17:00 までにポスターの撤去をお願いします。

【企業展示】

会場：地域経済学科棟ロビー

時間：10:30～17:00

【ランチョンセミナー】

会場：地域経済学科棟1階 101 教室

時間：12:12～13:30

当日朝にランチョンセミナー参加券を配布します。参加券と引換えにお弁当とお茶をお渡しします。

【幹事会】

会場：2 階 203 講義室

時間：12:12～13:30

【懇親会】

懇親会場へはホテル提供の無料バスで移動になります。（17:40 出発）

会場：ホテル東日本宇都宮 時間：18:10～20:10

【会場案内】



バス停で下車後、本部1号館を通り抜け食堂棟に沿って進んでください。

日本マイコトキシン学会第 82 回学術講演会

タイムテーブル

9:30－	受付
9:55－10:00	挨拶
10:00－11:00	一般講演（O-1~O-5）
11:00－11:12	休憩
11:12－12:12	一般講演（O-6~O-10）
12:12－13:30	ランチョンセミナー、幹事会
13:30－14:30	特別講演（S-1~S-2）
14:30－15:30	ポスターセッション（P-1~P-16）
15:30－16:20	シンポジウム（S-3~S-4）
16:20－16:30	休憩
16:30－17:20	シンポジウム（S-5~S-6）
17:20－17:25	次回学術講演会世話人挨拶
17:25－17:30	閉会挨拶
18:10－20:10	懇親会

日本マイコトキシン学会第 84 回学術講演会プログラム

日 時：2019 年 8 月 23 日（金） 10:00～17:30（会場 9:00、受付開始 9:30）

場 所：帝京大学 宇都宮キャンパス 地域経済学科棟 1 階 101 教室

（〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台 1-1）

講演会、ランチョンセミナーは同一の会場となります。

09:55－10:00 挨拶 波江野 勉（帝京大学理工学部長）

10:00－11:00 一般講演（O-1～O-5）

座長：吉成知也（国立医薬品食品衛生研究所）

鈴木忠宏（農研機構食品研究部門）

O-1 (10:00－10:12) 焙煎コーヒー中のオクラトキシンA分析時の不明ピーク (OTA-X) の同定と毒性評価

○川村 理、佐藤朱音

（香大・農）

O-2 (10:12－10:24) アフラトキシン産生菌検出用培地における微量元素濃度の影響

○鈴木忠宏¹、豊田正俊²

（¹農研機構・食品研、²FAMIC）

O-3 (10:24－10:36) LC-MSによるトウモロコシ中に含まれるフモニシンC群由来モディファイドマイコトキシンの検出

○中川博之、畑林秀美、松尾洋輔

（農研機構・食品研）

O-4 (10:36－10:48) アルカリ処理法によるトウモロコシ加工品中のモディファイドフモニシン量の推定に関する研究

○小池義浩¹、渡辺麻衣子²、清水公德¹、大西貴弘²、工藤由起子²、吉成知也²

（¹東京理科大・生物工、²国立衛研）

O-5 (10:48－11:00) イネ苗生育に対するフモニシンの影響

○須賀晴久¹、Bao Wanxue²、Sultana Sharmin²、館林 将³、臼井綾子¹、清水将文³、景山幸二⁴

（¹岐大・科基セ、²岐大院・連農、³岐大・応生、⁴岐大・流域研セ）

11:00－11:12 休憩

11:12－12:12 一般講演（O-6～O-10）

座長：須賀晴久(岐阜大学)
清水公德(東京理科大学)

O-6 (11:12－11:24) *Fusarium graminearum*の培養時における環境的要因と窒素源代謝制御因子AreAのトリコテセン生合成制御への寄与

○中嶋佑一¹、塩原拓也¹、赤坂まな美¹、前田一行²、金丸京子¹、小林哲夫¹、木村 真¹
(¹名大院・生命農、²明大・農)

O-7 (11:24－11:36) *Fusarium graminearum*のC-4位糖抱合による新たな解毒経路の可能性

○松井宏介¹、新海航輝²、武田博音³、相川俊一⁴、安藤直子²、木村 真¹
(¹名大院・生命農、²東洋大院・理工、³東洋大・理工、⁴東洋大・工技研)

O-8 (11:36－11:48) 生合成遺伝子の欠損、組換えによって生じる *Fusarium* トリコテセンの側鎖構造に関する研究 - *Tri8* が DON/NIV ケモタイプを決め 4-deoxy T-2 toxin の C-15 を脱アセチル化する

○松山桃子¹、田中祐弥¹、前田一行²、中嶋佑一¹、鈴木 将³、貞松和樹³、松井宏介¹、
金丸京子¹、小林哲夫¹、安藤直子³、木村 真¹
(¹名大院・生命農、²明大・農、³東洋大院・理工)

O-9 (11:48－12:00) ブナハリタケが生産する1-phenyl-3-pentanoneは、赤かび病菌の成長やカビ毒の生産を抑制する

○原 幸代、相野公孝、村上二郎
(吉備国大・農)

O-10 (12:00－12:12) デオキシニバレノールの短期曝露が皮膚アレルギー症状に及ぼす影響について -*in vitro*および*in vivo*における解析-

○相原亮太¹、大河原冬彩¹、森本 藍¹、岩下直樹^{1,2}、三宅司郎³、福山朋季¹
(¹ 麻布大・獣医、² Bioalchemis、³ 麻布大・食品衛生)

12:12－13:30 ランチョンセミナー、幹事会

- L-1 BIOMIN JAPAN株式会社
- L-2 株式会社分析技術研究所
- L-3 Randox Food Diagnostics
- L-4 株式会社プラクティカル
- L-5 雑誌TOXINS (代理説明)

13:30－14:30 特別講演

座長：作田庄平（帝京大学：S1）、
中川博之（農研機構食品研究部門：S2）

S-1 (13:30—14:00) カイコの食品、医薬品の評価動物としての利用
関水 和久 (帝京大・医真菌研)

S-2 (14:00—14:30) 質量分析イメージングを用いた農産物中の代謝物の可視化
榎元 廣文 (帝京大・理工)

14:30—15:30 ポスターセッション(地域経済学科棟ロビー)

P-1 デオキシニバレノール汚染小麦の亜急性経口投与がアレルギー性皮膚炎モデルマウスに及ぼす影響
について

○大河原冬彩¹、相原亮太¹、森本 藍¹、岩下直樹^{1,2}、宮坂 篤³、久城真代⁴、三宅司郎⁵、福山朋季¹
(¹麻布大・獣医、²Bioalchemis、³農研機構・九沖研、⁴農研機構・食品研、⁵麻布大・食品衛生)

P-2 フモニシンが皮膚アレルギー症状に及ぼす影響についての検討 -FB1とFB2における症状発現の比較-

○森本 藍¹、大河原冬彩¹、相原亮太¹、岩下直樹^{1,2}、小西良子³、福山朋季¹
(¹麻布大・獣医、²Bioalchemis、³麻布大院・環境保健)

P-3 赤かび病菌各種ケモタイプにおけるトリコテセン水酸化酵素遺伝子 *TriL* 改変株の作出と解析

○前田一行¹、中嶋佑一²、木村 真²、大里修一¹
(¹明大・農、²名大院・生命農)

P-4 Feeding、酵素反応によるA型トリコテセン類縁体の生産及びMS/MSデータライブラリーの構築

○貞松 和樹¹、小豆畑隼²、鈴木 将¹、松井宏介³、中嶋佑一³、木村 真³、安藤 直子^{1,2}
(¹東洋大院・理工、²東洋大・理工、³名大院・生命農)

P-5 異属トリコテセン生産菌を利用した新規トリコテセン類の創製

○鈴木 将¹、貞松和樹¹、岡田彩希¹、小豆畑 隼²、小泉慶明²、松井宏介³、木村 真³、安藤直子¹
(¹東洋大院・理工、²東洋大・理工、³名大院・生命農)

P-6 7-hydroxy T-2 toxin系トリコテセンの性状解析と炎症抑制能の検証

○岡田彩希¹、鈴木 将¹、貞松和樹¹、小豆畑 隼²、松井宏介³、安藤直子^{1,2}
(¹東洋大院・理工、²東洋大・理工、³名大院・生命農)

P-7 cAMP-PKA経路の構成因子の変異がトリコテセン生合成制御に及ぼす影響の解析

○赤坂まな美¹、中嶋佑一¹、前田一行²、金丸京子¹、小林哲夫¹、木村 真¹
(¹名大院・生命農、²明大・農)

P-8 特定の一次代謝の活性化がトリコテセン生産に及ぼす影響を解析するための液体合成培地の開発

○中尾明日香¹、塩原拓也¹、赤坂まな美¹、中嶋佑一¹、前田一行²、金丸京子¹、小林哲夫¹、木村 真¹
(¹名大院・生命農、²明大・農)

P-9 小腸オルガノイドを用いたデオキシニバレノールの新規評価系の確立

○羽生ひかる¹、大塚琴絵¹、佐藤みちる¹、岩槻 健²、齋藤由季¹、只石 幹¹、清水 誠¹、服部一夫¹
(¹東農大・栄養、²東農大・食安健)

P-10 *Penicillium citreonigrum* におけるCTV生合成関連候補遺伝子の発現解析

○岡野 巧¹、伊澤和輝²、吉成知也³、小林直樹¹、小西良子¹
(¹麻布大院・環境保健、²東工大・情報理工、³国立衛研)

P-11 パツリンを分解する微生物の探索と機能解析

○三田芽実¹、中川博之²、古屋俊樹¹
(¹東京理科大・理工、²農研機構・食品研)

P-12 ジクロロボス-アンモニア (DV-AM) 法を用いた輸入生ナッツからのアフラトキシン生産菌の検出

○矢部希見子¹、湯下実穂¹、山本侑加¹、久城真代²
(¹福井工大・環食応化、²農研機構・食品研)

P-13 アフラトキシン生産量とエタノール生産量との関連性

○譚 承堯、大日向光暉、古川智宏、作田庄平
(帝京大・理工)

P-14 落下生中のフラバン-3-オール類の質量分析イメージングによる可視化

○福田修平¹、黒須圭太¹、菊池太地¹、永岡和也¹、八田 一²、榎元廣文^{1,3}
(¹帝京大・理工、²京都女大・家政、³帝京大・機器分析センター)

P-15 ステリグマトシスチン遺伝子クラスター転写因子Af1Rタンパク質の機能解析

○久保田雅大、仲西勝海、清水公德
(東京理科大・生物工)

P-16 アスペルギルス二次代謝産物クラスター遺伝子のノックアウト

○蘆原名月、清水公德
(東京理科大・生物工)

15:30-17:20 シンポジウム「マイコトキシン研究と医真菌研究のコラボレーション」

座長：亀井克彦、小西良子、作田庄平、榎村浩一

S-3 (15:30-15:50) マイコトキシン研究からの一考察

作田庄平 (帝京大・理工)

S-4 (15:50-16:20) マイコトキシンの医真菌学的意義とその展望

榎村浩一 (帝京大・院・医真菌学)

16:20—16:30 休憩

S-5 (16:30—16:50) バイオマーカーを用いたマイコトキシン暴露評価の現状と将来
小西良子（麻布大院・環境保健）

S-6 (16:50—17:20) 真菌感染症においてマイコトキシンは何をしているのか？
亀井克彦（千葉大・真菌センター）

17:20—17:25 次回第85回学術講演会世話人挨拶 木村 真（名大院）
ISMYCO 2020 & ICM 2020のご案内 作田庄平（帝京大）

17:25—17:30 閉会挨拶 須永 修（BIOMIN Japan）

17:40—18:00 懇親会場へ移動（バス）

18:10—20:10 懇親会（ホテル東日本宇都宮）

ベストプレゼンテーション賞の表彰（乾杯後すぐ）

特別イベント：餃子屋台、カクテルバー、ジャズ生演奏「岩寄香織スペシャルバンド」

（懇親会終了後、ホテルからJR宇都宮駅までバスが出ます。）

第 84 回日本マイコキシン学会学術講演会では、学生会員の口頭発表およびポスター発表の中の優れた発表に対して、ベストプレゼンテーション賞を授与しました。



第84回 日本マイコキシン学会学術講演会ベストプレゼンテーション賞

O9 原 幸代（吉備国際大学農学部）

「ブナハリタケが産生する1-phenyl-3-pentanoneは、赤かび病菌の成長や赤カビ毒の生産を抑制する」

O10 相原 亮太（麻布大学獣医学部）

「デオキシニバレノールの短期曝露が皮膚アレルギー症状に及ぼす影響について -*in vitro*および*in vivo*における解析-

P9 羽生 ひかる（東京農業大学応用生物科学部）

「小腸オルガノイドを用いたデオキシニバレノールの新規評価系の確立」